海外だより その1

モンゴル国からの活動報告 10
Mongolian National Standardの改訂に向けた活動

池本めぐみ
国立国際医療研究センター　国際医療協力局　助産師

はじめに

私は，独立行政法人国際協力機構（Japan International Cooperation Agency：JICA）の技術協力プロジェクト「医師及び看護師の卒後研修強化プロジェクト」の長期専門家として国立国際医療研究センターからモンゴル国に派遣されています。

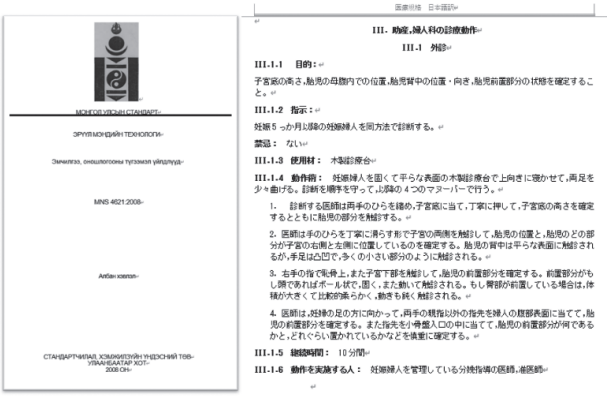
モンゴル国の助産師の職務は，2017年に作成された職務記述書に明記されており，一部の薬剤の処方や会陰裂傷の縫合などを含み，かなり高度な知識や技術を要す内容が含まれています。ある日，私は，臨床現場で助産師の職務記述書に書かれている業務が実施されていないことに気がつきました。現場の助産師や産婦人科医，保健省や保健開発センターの行政官らにお話を聞かせていただき，その要因のひとつがMongolian National Standard（以下，MNS）であることが分かりました。今回は，この気づきからMNSの改訂に向けた活動について報告させていただきます。

臨床現場での助産師が提供する保健医療サービスの根拠

モンゴル国の助産師は，MNS，助産師の職務記述書，産科サービスに関わる保健大臣令などの規則等に従い，保健医療サービスを提供しています。

MNSは，さまざまな医療の分野の医療技術をまとめた手順書で，モンゴルの医療従事者がMNSに従い医療を提供しています。名の通りモンゴル国のスタンダードという重要な位置づけであり，保健省だけでなく規格・度量衡庁で承認を受けたものです。医療従事者は，MNSに従わずに医療事故などを起こした場合，罰せられるというものです。現在のMNSは2008年に作成されたものであり，医療技術の進歩に対応し，さらに質の高い医療を提供するために改訂が必要とされています。

MNSの一部をご紹介させていただきます。まず，手洗い，手袋の装着，注射の準備から実施などの一般的な看護技術が並んでいます。そして，眼科や耳鼻科の手技の次に産婦人科＆助産領域の手技です。妊婦の外診，骨盤測定，子宮底長の測定，内診，会陰切開，誘発分娩，鉗子の適応，骨盤位の娩出方法，子宮内掻把など，さまざまな手技が書かれています。各手技には，目的や概要，条件，方法，準備，実施者，最終的な監視をする人などが示されています。現在のMNSの産婦人科＆助産領域の多くの手技は，実施者が「医師および准医師」と書かれており，助産師が実施できる手技はいくつかだけです。



Mongolian National Standardの表紙と手技の例

一方，助産師の職務記述書は，MNSが作成された2008年の後，2017年に保健大臣令として発令されました。助産師は，母子保健分野において，公衆衛生および医療サービスを迅速，平等に提供するとされ，7つの目標が書かれています。その目標とは，①対象住民に家族計画に関するサービスを提供する，②対象住民のすべての妊婦に必要な一次医療サービスを提供する，③対象住民に出産および産後のサー

ビスを提供する，④対象住民に一次医療サービスを提供する，⑤対象住民に公衆衛生サービスを提供する，⑥一次記録様式の記載，⑦自らの知識・専門・能力を常に強化し，自分の専門分野で他の医療従事者，医療スタッフの育成，知識供与に参加する，とあります。これらの各目標にサービス，アドバイス，実施するスキルなどについて書かれています。助産師は，正常分娩を医師の監督の下で管理，出産記録としてパルトグラムを記録します。手技としては，会陰裂傷の縫合や，研修を受けていればIUDやインプラントの挿入・脱出もできる内容です。しかし，臨床現場での助産師が提供する保健医療サービスは，2017年に助産師の職務記述書が発令されたとしても，上位文書となるMNSや産科サービスに関わる保健大臣令などの規則に従って提供しているため，職務記述書に書かれている職務が実現できない状況になっています。

このような状況では，助産師の卒後研修を強化することが困難であるということに気づきました。当時，モンゴル国保健省のErdembileg事務次官，行政管理局のErkhembayar局長らの関係者に相談すると，MNSを管轄している部署を巻き込んでくださいました。2022年4月14日，MNSの改訂に向けた保健大臣令によるワーキンググループが設置されました。ワーキンググループ内には，小グループとして看護，産婦人科＆助産，伝統医学，がん，皮膚科の5領域が設置されました。産婦人科＆助産の小グループでは，モンゴル医科大学のTuul先生がリーダーとなり，国立第1・2母子保健センター，第1・2・3産科病院，オルホン県の保健局，地方の県病院の助産師ら，モンゴル医科大学の教員が改訂案を作成し，2023年5月15日に保健省に提出しました。改訂案は，ウランバートル市内の主要な産婦人科系の病院，ウランバートル市保健局，21県の保健局や病院に共有され，意見を聴取しました。2023年6月2日，いただいた意見を元に産婦人科専門委員会の委員長・副委員長，小グループのメンバー，ウランバートル市の主要な産科病院の医師や助産師で意見交換会を開催しました。その内容を反映した最終版を作成し，2023年8月11日に保健省に再提出しました。これから規格・度量衡庁での確認後，MNSとして承認を受ける予定です。

モンゴル医科大学のB.Tuulリーダー改訂案を説明する様子

意見交換会の参加者

おわりに

モンゴルの助産師は，本来，多くの助産サービスを提供していました。MNSの改訂後，再びこれらの助産サービスをモンゴルの助産師が安全，安楽に実施できるまでに，大きな困難や挑戦があると思います。それでもモンゴルの助産師は，母子や女性，女子はじめモンゴルの人々のより良い人生のためにご活躍されることを信じています。

最後になりましたが，MNS改訂に向けてご尽力くださった保健省のErdembileg前事務次官，行政管理局のErkhembayar前局長をはじめ関係者の皆様および日本からご支援ご指導いただいている皆様に深く感謝申し上げます。